

社会科学学習指導案（地理的分野）

日時 令和3年6月4日（金）第5校時
対象 2年2組35人
指導者 教諭 岩川朋之

1 単元 「北海道地方」

2 単元の考察

本単元では、学習指導要領に示された地理的分野内容C(3)「日本の諸地域」の中から、北海道地方を取り上げる。「日本の諸地域」の取り扱いについては、学習指導要領解説編において、空間的相互依存作用や地域などに着目して、地域の特色ある事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することを主なねらいとしている。日本の約4分の1の面積を占める北海道地方では、広大な土地と多様な自然環境を生かした産業が行われており、特に農産業と観光業は北海道地方の経済を支える基幹産業として大きく成長してきた。また北海道地方は、株式会社ブランド総合研究所が実施する都道府県別魅力度ランキング（2020年）で12年連続1位を獲得するなど、国内外からも脚光を浴びることが多い地域である。一方で、少子高齢化による道内の人口減少スピードは全国平均を上回る速さとなっており、道内各地から札幌市への一極集中が進んでいる。また、この一極集中により、道内における経済格差が拡大するなど、広大な面積と多くの自治体を抱えている北海道地方ならではの解決すべき課題が多く挙げられる。特に経済面については、道内人口が減少へと転じた1997年以降は伸び悩みを続け、2004～2014年度における道内GDPの期間平均成長率は、名目GDPと実質GDPがともにマイナスであるなど、北海道経済は他地域に比べても、明らかな低迷状態にある。以上のことから、本単元では北海道地方の産業に焦点を当てることとし、地域の農業や工業など産業に関する特色ある事象を中核としながら、前単元までに身に付けた地理的な見方・考え方を働かせて、北海道地方の地域的特色や課題を捉えさせる学習を展開したい。

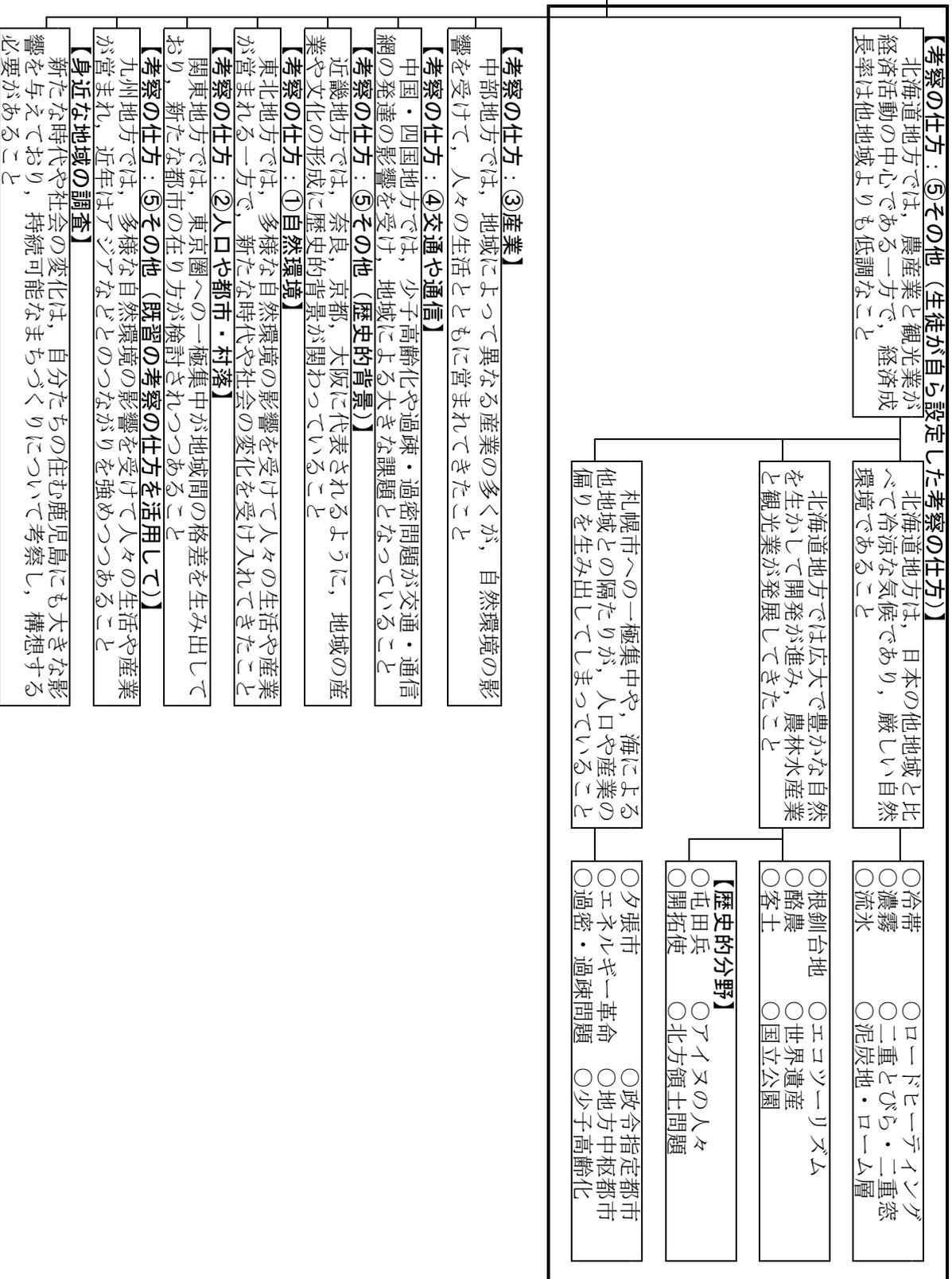
生徒は、「地理の学習が将来役に立つ」と考えている生徒が29名（81%）いるものの、地図や資料を読み取る技能や、基礎的な事実的知識を理解しておくことが重要であると考えている。すなわち、社会科の授業で取り上げる社会的事象について追究したり、資料を基に考察・構想したりする必然性をあまり感じられていない。特に、ニュースを見るときに「日本の各地域のニュースを気にしているか」聞いたところ、「気にしていない」と回答した生徒の割合が半数を超え、さらには「行く機会があまりない離れた地域のため、よく知らないから興味がない」と答える生徒もいた。したがって、本単元においても生徒に学ぶ必然性を感じさせるとともに、日本の諸地域について主体的に学習に取り組む態度を育む指導に重点を置く必要がある。

そこで本単元では、生徒がもっている概念的知識に矛盾が生じたり、一般的に知られている社会的事象に対して違和感をもったりするような学習課題を最初に設定し、生徒が主体的に学習しようとする姿を引き出せるような工夫を取り入れることにした。また、生徒が自らの主張を裏付けるために、必要な見方・考え方を働かせたり、問いを新たに立てたりして探究する活動を繰り返せば、生徒が自己内対話を行いながら学習を進めていくことにつながると考えた。さらに、単元の導入部において単元の学習計画や評価規準を予め生徒へ示すことで、生徒が単元全体の見通しをもって学習に臨むことができると同時に、単元末では自らの学びを客観的に振り返ることも可能となる。こうした単元の学習を通じて、主体的に社会の形成に参画し、新たな時代を豊かに生きる生徒の育成を図っていきたい。

概念的な知識

事 実 的 な 知 識

日本は，地方ごとに自然的条件や社会的条件に応じて，地域的特色や課題が見られること



取り扱う中単元

4 単元の目標

- (1) 北海道地方の地域的特色や課題を，自ら妥当性のある資料を収集したり読み取ったりする探究的な活動を通して，既有知識と結び付けながら理解する。 (知識及び技能)
- (2) 北海道地方の地域的特色や課題を，生徒が自ら立てた「問い」を用いて多面的・多角的に考察し，自らの主張を明確な根拠を示して表現する。 (社会的な思考力，判断力，表現力等)
- (3) 北海道地方の地域的特色や課題を，単元を貫く学習課題に基づいて，自分で着目点や問いを立てて資料を収集したり，他者と自らの主張や論拠等を比較したりしながら主体的に探究しようとする態度を養う。 (学びに向かう力，人間性等)

5 単元の指導と評価 (全5時間)

(1) 単元の指導と評価計画

—— は授業中， —— は授業後に行う評価

| 学 習 課 題 | 時 間 | 評 価 規 準 | | | 育成を図る資質・能力と具体的な活動場面 | | | |
|--|-----|--|---|--|---------------------|-----|------|---|
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 対話力 | 質問力 | 情報能力 | 活動場面 |
| 単元を貫く学習課題の設定 単元のテーマに対する自分の主張を裏付けるために必要な着目点と問いを考えよう。 | 本時 | | 単元を貫く学習課題を追究するために，必要な着目点を考えたり，問いを立てたりしている。 【ワークシート】 | 単元を貫く学習課題を追究するために必要な着目点を考えたり問いを立てたりして，学習の見通しをもっている。 【ワークシート】 | ○ | ○ | | 単元を貫く学習課題を追究するために，思考マンドラチャートを用いて，必要な着目点を考えたり，自分で問いを立てたりして検討する場面 |
| 学習課題の追究と考察 自分の立てた問いに沿って必要な資料を収集し，主張を整理していこう。 | 2 | 単元を貫く学習課題に対する自分の問いを探究するために適切な資料を収集し，北海道地方の特色や課題を理解している。 【ワークシート・観察】 | 単元を貫く学習課題に対する自分の問いを探究するために収集した資料を基に，多面的・多角的に考察し，自分の主張を整理している。 【ワークシート】 | 単元を貫く学習課題に対する自分の問いを探究するために適切な資料を収集したり，取捨選択したりしている。 【スライド・ノート】 | | ○ | ○ | 単元を貫く学習課題に対して立てた自分の問いの解決を目指し，資料を収集したり，取捨選択したりしながら考察する場面 |
| 結果の共有と評価 自分と他者の主張や論拠等を比較して検討し，主張をより練り上げよう。 | 1 | | 他者の主張を基に自分の主張を捉え直し，多面的・多角的な視点から再考して表現している。 【ワークシート】 | 単元を貫く学習課題に対する自分の主張を，他者と比較したり，比較して整理したりしながらまとめようとしている。 【ワークシート・観察】 | ○ | ○ | | 他者の主張や指摘に対し，対話マンドラチャートを用いて質問をしたり，他者の質問に対して自分の主張を説明したりする場面 |
| 結論付け 単元のテーマに対する自分の主張を，根拠に基づいて論じよう。 | 1 | 既有知識や自分で探究した内容を踏まえ，北海道地方の特色や課題を適切に捉え，理解している。 【ワークシート】 | 単元を貫く学習課題に対する自分の主張を，多面的・多角的に考察し，根拠をもってまとめ，表現している。 【ワークシート】 | 北海道地方の学習を振り返り，新たな価値を見いだしたり，今後の学習に生かしたりしようとしている。 【ワークシート】 | ○ | ○ | | 単元を貫く学習課題に対する自分の主張を，根拠・論拠に基づいて文章化する場面 |

(2) 単元の評価

| 観 点 | 知 識 ・ 技 能 | 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------------|---|---|---|
| 十分満足できると判断される状況 | 複数の妥当性のある資料を収集したり読み取ったりしながら，これまでの学びと結び付けて，北海道地方の地域的特色や課題を理解している。 | 複数の着目点や立場から北海道地方の地域的特色を探究し，明確な根拠や事実を基に主張を述べるだけでなく，北海道地方の抱える課題について自分なりに考えをもっている。 | 着目点や問いを考えたり，他者の主張や論拠等と比較したりしながら，自分の学習計画を修正し，主張を練り上げようするなど，粘り強く探究している。 |
| おおむね満足できると判断される状況 | 自ら妥当性のある資料を収集したり読み取ったりする探究的な活動を通して，既有知識と結び付け，北海道地方の地域的特色や課題を理解している。 | 北海道地方の地域的特色や課題を，自ら立てた問いを用いて多面的・多角的に考察し，自分の主張を明確な根拠や事実を示しながら表現している。 | 着目点や問いを考えたり，他者の主張や論拠等と比較したりしながら意欲的に探究している。 |
| 努力を要すると判断される状況 | おおむね満足できると判断される状況を満たしていない | | |

6 本時の実際

(1) 主題 「北海道地方は、本当に『魅力ある地』と呼べるのだろうか」

(2) 本時の目標

ア 単元を貫く学習課題を追究するために、必要な着目点を考えたり、問いを立てたりする。
(思考力・判断力・表現力等)

イ 単元を貫く学習課題を追究するために、必要な着目点を考えたり問いを立てたりして、学習の見通しをもつ。
(学びに向かう力、人間性等)

(3) 主題の考察

全国各地の百貨店を中心に開かれる「北海道の物産と観光展(北海道庁；経済部食関連産業局食産業振興課の主催)」は、毎年多くの来場客で賑わうことで知られる。特に鹿児島市内の大手百貨店・山形屋で開催される同イベントは、20年連続(2019年)で売上日本一を記録し、3週間程度の開催期間で総売上額が10億円を超えるという。そのほか、各都道府県で開催された物産展の中でも北海道に関する企画展が売上を伸ばしているという現状を踏まえると、北海道は国内から高い人気を得ている地域だと考えられる。また、「新型コロナウイルスの感染収束後に訪れたい日本の地域」について訪日外国人を対象に行った調査(日本経済新聞；2020年9月)では、北海道が東京に次いで2位という結果であり、国外からも旅行先として高い人気を誇っていることが分かる。しかしながら、北海道地方の現状は、札幌市への一極集中による道東地域の過疎化、夕張市の経済破綻、北海道胆振東部地震(2018年)による被災など、自然環境や経済、人口等数多くの課題を抱えている。以上のことから、一般的に「魅力あふれる地」と認識されている北海道地方について、地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、深く理解することは北海道地方の本当の姿を知ることにつながるだけではなく、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する上で、大きな意義があると考えられる。

生徒は、アンケート結果によれば、北海道地方と聞いて思いつくものとして、豊かな食など産業に関すること29名(81%)、雪などの自然環境に関すること25名(69%)、アイヌ民族など歴史・文化に関すること19名(53%)、北方領土など政治に関すること11名(30%)などを多く挙げていた。特に、北海道地方が魅力度ランキングで1位を獲得していることについては、メディアによる報道を通じて知っている生徒が多数いた。一方で、少子高齢化、労働人口の不足、経済成長率の低迷など、北海道地方が抱える課題について回答する生徒はおらず、北海道地方について一面的な捉え方しかできていないことが浮き彫りとなった。

そこで、指導に当たっては、単元を貫く学習課題を「北海道地方は、本当に『魅力ある地』と呼べるのだろうか」と設定し、北海道地方を多面的・多角的に捉えさせるだけではなく、生徒自身が主体的に学習に取り組もうとする姿が見られる工夫を取り入れることとした。まず、意思表示カードを用いて、北海道の魅力について自らの主張とその理由を表出させる。ここで表された理由は、根拠に基づかず、感覚的なものが多いと考えられるため、より深く学習課題について追究していく必要が出てくる。そこで生徒には、学習課題に対して立てた自分の主張をより深く探究するため、どのような点に着目して探究を進めていけばよいのか、思考マンダラチャートを用いて考えさせる。次に、自分の主張をより深く探究していくために、着目しようとする点をより具体化する必要があることから、7W1Hが示されたマンダラチャートを用いて自ら問いを立てさせ、どのような資料を収集すべきなのか考えさせる。さらには、他者がどのような点に着目して探究を進めていくのかを共有し合えれば、より深い階層の問いを立てることができる。こうした指導の工夫により、生徒は単元を見通して学習に臨むことができ、社会的事象を多面的・多角的に考察し、自らの学習を調整しながら、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることにつながっていくと考える。

(4) 研究との関連

ア マンダラチャート式の思考フレームを用いて、単元を貫く学習課題に迫るための着目点や問いを自分で立てさせたり、必要となる情報を考えさせたりすることにより、生徒の自己内対話を活性化する。(教科論4-(1)ア)

イ 生徒一人一人の観点別学習状況の評価を記録する機会を精選し、ある程度長い区切りで「主体的に学習に取り組む態度」を評価するために、単元構成と評価計画を工夫して指導と評価の一体化を図るとともに、単元の学習計画と評価計画を生徒と共有する。(教科論4-(2)イ)

(5) 本時の展開 (1/5)

| 主な発問や指示 | 時間 | 学 習 活 動 | 指 導 上 の 留 意 点 | 情報提示の方法と内容 |
|---|--------------|---|--|---|
| <p><問題把握></p> <p>○ 北海道地方に関する写真を見て、どのようなイメージをもつだろうか。</p> <p>○ 魅力度は1位なのに「課題先進地」と言われる理由はなぜだろうか。</p> | 3分 2分 | <p>1 北海道地方の写真を見て、北海道地方に対して抱いたイメージを発表する。</p> <p>2 単元を貫く学習課題を設定する。</p> | <p>1 北海道地方が国内外から脚光を浴びる人気地であることを印象付けさせる。</p> <p>2 単元を貫く学習課題を設定し、北海道地方の「魅力」を探究的に学んでいくことを確認させる。</p> | <p>(スライド)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道の様子(授業者撮影) 都道府県魅力度ランキング 都道府県観光意欲度ランキング 人気旅行先ランキング 北海道知事の公式ホームページ |
| <p>北海道地方は、本当に「魅力ある地」と呼べるのだろうか</p> | | | | |
| <p><本質究明></p> <p>○ 北海道地方は、本当に「魅力ある地」と呼べるのだろうか。</p> | 5分 1分 | <p>3 単元を貫く学習課題に対する自分の主張を、ワークシートと意思表示カードを用いて示す。</p> <p>4 本時の学習課題を設定する。</p> | <p>3 単元を貫く学習課題に対する自分の主張をワークシートに表現させ、意思表示カードを用いて視覚化させる。</p> <p>4 本時の学習課題を示す。</p> | <p>(ワークシート)</p> <p>(意思表示カード)</p> |
| <p>単元のテーマに対する自分の主張を裏付けるために必要な着目点や問いは何か考えよう。</p> | | | | |
| <p>○ 自分の主張を深めていくには、どのような点に着目して探究すればよいだろうか。</p> | 15分 | <p>5 自分の主張を裏付けるために必要だと考えられる着目点を自由に挙げ、マンダラチャートを作成する。</p> | <p>(教科論4-(1)ア)</p> <p>5 自分自身の主張を裏付けるために、どのような点に着目して探究すればよい考えさせる。</p> | <p>(ワークシート)</p> |
| <p>○ 着目点に沿って探究していくためには、どのような問いや資料が必要なのだろうか。</p> | 15分 | <p>6 探究する際に必要だと考えられる問いと資料を自由に挙げる。</p> | <p>6 自分で考えた着目点を基に、7W1Hが書かれたマンダラチャートを用いて、探究につながる問いを自由に立てたり、資料を考えたりさせる。</p> | <p>(ワークシート)</p> |
| <p>↓</p> | | | | |
| <p>【思考・判断・表現】 単元を貫く学習課題を追究するために、マンダラチャートを用いて、必要な着目点を考えたり、問いを立てたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 単元を貫く学習課題を追究するために、必要な着目点を考えたり問いを立てたりして、学習の見通しをもっている。</p> | | | | |
| <p>○ 必要な着目点や問い、資料には、他にどのようなものが挙げられるだろうか。</p> | 5分 | <p>7 自分の考えた着目点や問い、資料を共有し合う。</p> | <p>7 自分の考えた着目点や問い、資料を他者と共有し合うことで、探究をしていくために必要だと考えられるものを整理させる。</p> | <p>(ワークシート)</p> |
| <p><洞 察></p> <p>○ 次の時間からは、どのように学習を進めていけばよいだろうか。</p> | 4分 | <p>8 次時の予告を聞き、単元を学習する見通しをもつ。</p> | <p>(教科論4-(2)イ)</p> <p>8 単元の学習計画とルーブリックを示し、学習の見通しをもたせる。</p> | <p>(スライド)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の学習計画表 ルーブリック評価表 |

□ は評価場面、○ は授業中における評価規準を示す。

(6) 本時の評価

| 観 点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------------|-------|--|---|
| 十分満足できると判断される状況 | | 単元を貫く学習課題を追究するために必要な着目点を、より具体的に表現したり、その着目点を複数組み合わせ合わせた問いを考えたりしている。 | 単元を貫く学習課題を追究するために必要な着目点や問いを、他者の考えを参考にしながら修正し、どのように探究すればよいか学習の見通しをもっている。 |
| おおむね満足できると判断される状況 | | 単元を貫く学習課題を追究するために必要な着目点を考えたり、問いを立てたりしている。 | 単元を貫く学習課題を追究するために必要な着目点を考えたり問いを立てたりして、学習の見通しをもっている。 |
| 努力を要すると判断される状況 | | おおむね満足できると判断される状況を満たしていない | |

※ 努力を要すると判断される状況にある生徒については、授業中に教師側から着目点や問いの例を個別に示すなど、生徒の実態に応じた支援を行う。

(7) 資質・能力についての関連図

| | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|--|---|---|--|
| 学校教育目標を三つの柱で整理した資質・能力 | <u>物事の本質を深く追究</u> したり、 <u>自己を生かして協働</u> したりするための知識・技能を身に付けるようにする。 | 目的に向かって知識・技能を活用し、 <u>よりよいものをつくり上げるための必要な力</u> を養う。 | <u>自分と他者の理解を深め、よりよいものをつくり上げ</u> 、自尊感情並びに他者を大切にす感情を育み、社会に参画していく態度を養う。 |
| 本校社会科の目標 | 「社会的な見方・考え方」を働かせて、概念等に関する知識を習得するとともに、 <u>情報を収集し、読み取りまとめる技能を身に付ける</u> ようにする。 | <u>社会に見られる課題の解決に向けて質問や対話により考察を深め、選択・判断する力</u> を養う。 | <u>よりよい社会の実現を視野に課題を解決しようとし</u> 、自国を愛し、他国や他国の文化を尊重しようとする態度を養う。 |
| 本単元の目標「北海道地方」 | 北海道地方の地域的特色や課題を、 <u>自ら妥当性のある資料を収集したり読み取ったりする探究的な活動</u> を通して、既有知識と結び付けながら理解する。 | 北海道地方の地域的特色や課題を、生徒が自ら立てた「問い」を用いて <u>多面的・多角的に考察し、自らの主張を明確な根拠を示して表現する</u> 。 | <u>北海道地方の地域的特色や課題を、単元を貫く学習課題に基づいて、自分で着目点や問いを立て、情報収集したり、他者と自らの主張や論拠等を比較したりしながら主体的に探究しようとする態度を養う</u> 。 |
| <p>思考マンダラチャートを用いて、必要な項目を考えたり、自らで問いを立てたりして自己内対話を活性化する場合 (教科論4-(1)ア)</p> <p>ある程度長い区切りで「主体的に学習に取り組む態度」を評価するために工夫した単元構成と評価計画について、生徒と共有する場合 (教科論4-(2)イ)</p> | | | |
| 本時の目標 | | <u>単元を貫く課題を追究するために必要な着目点を考えたり問いを立てたりする</u> 。 | <u>単元を貫く課題を追究するために必要な着目点を考えたり、問いを立てたりして、学習の見通しをもつ</u> 。 |

